

令和4年度

姫路市商工会  
経営発達支援計画  
事業評価書

評価委員会実施日：令和5年2月9日

## 1. 地域の経済動向調査に関すること

### 【実施した事業内容】

#### ① 調査計画の策定

- ・指導先 54 社への聞き取り調査を職員が分担して行った。

#### ②調査の実施

- ・全国商工会連合会が四半期毎に行う「小規模企業景気動向調査」8 社／四半期
- ・姫路市商工会が独自に選定した指導先「地域経済景気調査」54 社／四半期

#### ③集計・データ化

- ・調査に基づき、独自の報告書を作成。

参考データ：月例経済報告(内閣府)，中小企業景況調査データ（全国商工会連合会）  
独立行政法人 労働政策研究・研修機構報告書  
当会管内雇用情勢（ハローワーク姫路）

#### ④集計データの公表

- ・姫路市商工会WEBサイト (<https://himeji-shoko.jp/>) にて公開

### 【当初の目標・実績】

	R4 年度 目標	実績	達成率
①地域の経済動向分析の公表回数	1 回	2 回	200%
②景気動向分析の公表回数	4 回	2 回	50%
③兵庫県の動向調査	1 回	2 回	200%

### 【補足】

上記 3 調査全てに横断する項目を設けた調査書を作成。

それを用いて、四半期ごとに当会指導先 54 社（内訳：サービス業 16 社、製造業 10 社、卸小売業 17 社、建設業 11 社）を対象に調査を実施した。

調査に基づいて、全国・兵庫県・当会管内の比較を施した景気動向調査報告書を作成し、当会 WEB サイトにて公開。

R4 年度は、7 月・10 月・1 月に調査を実施し、9 月・11 月・(3 月・予定) に報告書を公開した。

**【事業評価】**

事業評価	A <b>B</b> C   D   E
コメント等	<p>・景気動向分析の公表回数が 50%となっている点がマイナスだが、WEB サイト上で第 1 四半期、第 2 四半期を公開されており、掲載がわかりやすく評価できる。調査だけでなく結果の活用方法の記入・公開があればなおよい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>本計画は 4 月からの実施であり、4 月から 6 月の調査を 7 月に実施、調査回収後分析し、結果を 9 月に公表した。このことから 10 月から 12 月の調査は翌年 1 月に実施しており、近々分析が済んで発表予定である。このことから現在 2 回の公表となっており、1 月~3 月の調査結果の公表は今年度に来ないため最終的に 3 回になるが、来年度以降は 4 回ずつの公表になる。</p>

<b>【評価目安】</b> A : 達成率 90~100%    B : 達成率 70~89%    C : 達成率 40~69% D : 達成率 1~39%    E : 未着手 0%
--

## 2. 需要動向調査に関すること

### 【実施した事業の内容】

#### (1) 情報収集

①海外市場ニーズ調査として海外の約10万人(※1)を対象にWEBサイト(※2)上で各事業者が取り扱う商品についての需要調査を実施。

のべで15ヶ国の360人から回答を得た(令和4年12月末現在)

※1. 世界中の人が日本やアメリカのECサイトから商品を購入する為のサイト「Buyee(バイイー) <https://buyee.jp/help/yahoo/guide?lang=ja>」の会員を対象とした

※2. 兵庫県商工会連合会が(株)JTBに委託し実施した「兵庫県産ブランド」の海外市場ニーズ調査事業のWEBサイト

②調査項目は、購買動機、購買障壁、価格帯、色、大きさ、見た目、パッケージ商品選択時の優先項目、各商品に関する詳細な設問等

#### (2) 情報整理・分析・提供

①. 調査内容を経営指導員が分析し、当該支援事業所にフィードバック

②. 調査内容に基づいて、今後の海外展開や商品開発に関する意向等を確認した。

③. 今後の展開に際して専門的な支援を必要とする場合は、中小企業診断士等の専門家派遣による連携した相談対応が叶う旨を説明した。

### 【当初の目標・実績】

	R4年度	実績	達成率
① 新商品開発の調査対象事業者数	2者	3者	150%
② 新商品開発の調査対象者数	50人	360人	720%

### 【補足】

対象事業者：(株)下村酒造店、壺坂酒造(株)、(有)キャッスルレザー

回答実績：回答国：台湾、香港、アメリカ、シンガポール、イギリス、フィリピン、オランダ、イタリア、スペイン、ドイツ、タイ、マレーシア、マカオ、ベトナム、フランス、不明・未回答

回答者内訳：台湾:187名、香港:67名、アメリカ:50名、シンガポール:12名  
イギリス:7名、フィリピン:6名、オランダ:5名、イタリア:5名  
スペイン:3名、ドイツ:3名、タイ:3名、マレーシア:3名  
マカオ:2名、ベトナム:1名、フランス:1名、不明・未回答:5名

**【事業評価】**

事業評価	A B C D E
コメント等	兵庫県商工会連合会の事業とうまく連携し、課題であった「需要動向調査を実施し、消費者の需要動向を小規模事業者にフィードバックする」という目標が果たしている。 今回の調査結果を基に、ぜひ「メイドイン姫路」のブランド力を高めてほしい。

<b>【評価目安】</b> A：達成率 90～100%    B：達成率 70～89%    C：達成率 40～69% D：達成率 1～39%    E：未着手 0%
--

### 3. 経営状況の分析に関すること

#### 【実施した事業内容】

(1) 日々の窓口・巡回指導に伴う事業所内の課題の把握と指導 (令和4年12月末現在)

R4年度 巡回訪問件数	2,441
R4年度 窓口相談件数	3,317
R4年度 合計対応件数	5,758

※経営相談のみならず、税務・労務相談等の関連相談から経営相談に移り経営状況分析に至ることも多々あるため、相談項目を問わず総数とした。

(2) マル経融資等に伴う財務状況の把握と指導7件 (令和4年度12月末推薦実績より)

(3) 各種セミナーの開催により経営分析のスキルを身につけることで自社の経営状況を把握し今後の経営に活かすための一助とした。(主なセミナー)

開催日		セミナー	受講人数
令和 4年度	6/24	BCPセミナー	36名
	10月～11月	創業塾	15名
	11/1	経営計画策定セミナー	9名
	12/8	DX推進セミナー	15名

(4) 専門家による個別相談事業 (各種専門家派遣事業、専門家窓口相談事業等)

※令和4年度 のべ67事業所 (計画書作成・商品開発・経営革新・持続化・ものづくり等)

#### 【当初の目標・実績】

	R4年度目標	実績	達成率
①セミナー開催件数	3回	4回	133%
②経営分析事業者数	7者	26者	371%

※セミナー参加は無くとも、個別での相談対応にて補助金申請等のために経営分析を実施。

#### 【事業評価】

事業評価	A	B	C	D	E
コメント等	セミナーの参加者を今後増加させることが課題である。				

【評価目安】 A：達成率 90～100%    B：達成率 70～89%    C：達成率 40～69%  
D：達成率 1～39%    E：未着手 0%

## 4. 事業計画策定支援に関すること

### 【実施した事業内容】

#### (1) 創業・第二創業支援

当会管内は小規模事業者が年々廃業し、創業件数を上回っている。創業件数の増加により小規模事業者の減少を食い止めるため、姫路市の特定創業支援等事業として創業塾を開催した。セミナーでは参加者全員が開業計画書を作成し、必要に応じて専門家による個別相談を実施。

#### (2) 経営計画・経営革新計画作成セミナーの開催

開催日		セミナー	受講人数
令和 4年度	6/24	B C Pセミナー	36名
	10月～11月	創業塾	15名
	11/1	経営計画策定セミナー	9名
	12/8	D X推進セミナー	15名

※事業承継セミナーについては、参加者が集団指導を忌避する傾向があること、また個々に需要や対応が異なることから、セミナーを開催せず、個別に事業承継計画策定を支援。事業引継ぎ支援センターとの相談案件：1社、のべ2件

#### (3) 巡回・窓口支援等

マル経融資や確定申告、補助事業の相談時に経営分析を実施。事業計画の策定が可能な事業者については策定を推進した。

#### (4) 各種補助金及び認証制度申請からの事業計画策定

経営革新計画、経営力向上計画等の認証を目指し、経営分析を行った小規模事業者を対象に事業計画策定を支援した

(各種補助金申請相談数及び申請件数 ※のべ数値)

補助金等名称	相談事業者数	のべ相談件数	のべ申請件数
小規模事業者持続化補助金	12	48	11
事業再構築補助金	7	42	5
ものづくり補助金	1	5	1
新事業展開応援事業補助金	8	24	8
姫路市起業家支援助成金	1	4	1
兵庫県起業家支援助成金	1	4	1
合計	30	127	27

申請件数を事業計画策定件数として計上。

【当初の目標・実績】

	R4 年度目標	実績	達成率
①DX推進セミナー	1回	1回	100%
②事業計画策定セミナー	1回	1回	100%
事業計画策定事業者数	3者	3者	100%
③創業塾	1回	1回	100%
事業計画策定事業者数	3者	9者	300%

【事業評価】

事業評価	A B C D E
コメント等	金融機関との連携を課題としながらも、実績を達成しており評価に値する。
<b>【評価目安】</b> A：達成率 90～100%    B：達成率 70～89%    C：達成率 40～69% D：達成率 1～39%    E：未着手 0%	



## 5. 事業計画策定後の実施支援に関すること

### 【実施した事業の内容】

#### (1) 支援プログラム作成

経営革新認定支援・小規模事業者持続化補助金申請支援等、各種申請の際に経営計画を策定した小規模事業者に対して、各職員が個別に支援を行っているものを、組織で統一し共有できるように取り組んでいるが、未だ完了していない。

今後は、そこから支援プログラムの策定に結び付けていきたい。

#### (2) ブラッシュアップ

策定した事業計画書に応じて、経済状況や需要動向に合っているかを確認し、課題解決に繋げている。専門的案件については、適宜専門家相談に繋げている。

各種補助金申請や経営革新申請などにもつなげている。

#### (3) フォローアップ・PDC Aサイクルの実現

令和4年度にこれまでの補助金申請事業者及び創業支援者を巡回訪問し、適宜専門家相談等に繋げるなどのフォローを行い、事業計画の見直しを実施した。

### 【目標及び実績】

	R4 年度目標	実績	達成率
フォローアップ対象事業者数	9 者	35	388%
頻度 (延回数)	20 回	105	525%
売上増加事業者数	1 者	4	400%
利益率 3%以上増加の事業者数	1 者	4	400%

### 【事業評価】

事業評価	A	B	C	D	E
コメント等	会員事業所のメリットの視点を事業報告の中に盛り込み、具体的にどういった成果・メリットがあったかを示す。次回の課題とする。				

【評価目安】 A : 達成率 90~100%    B : 達成率 70~89%    C : 達成率 40~69%  
D : 達成率 1~39%    E : 未着手 0%

## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

### 【実施した事業の内容】

#### 展示会出展事業（B to B）

##### ①. 「バーチャル展示会 2022」の開催

開催期間：令和4年11月1日から令和5年2月28日（WEBサイト公開）

集中商談会：令和4年11月17日（木）、18日（金）

商談会会場：楽通株式会社（姫路市三条町2-13）

出展事業者数：60社（内、福崎町3社、市川町3社、神河町2社）

WEBサイトアクセス数：1,416件、商談申込件数：35件、成約件数：3件（R4.12月末現在）

（内容）

新型コロナウイルス感染症の影響により対面型の展示会への参加や商談が難しい状況を鑑みて、新たな営業・販促活動策としてWebサイトを立ち上げ「バーチャル展示会」を開催した。商工会のスケールメリットを生かし、中播磨地区商工会連絡協議会と共催し各地域からの出展・広報を図った。

##### ②. 地域産品掘り起こし事業

会員事業所の商品や製品の展示会出展を支援した。具体的内容は下記

Food Style 関西 2023 ([https://foodstyle.jp/kansai/\\_outline/](https://foodstyle.jp/kansai/_outline/)) 出展予定

開催日：令和5年1月25日（水）26日（木）

会場：インテックス大阪1・2号館

来場見込：24,250名（FoodStyleJAPAN2022実績より）

出展事業者：2社

#### 販路開拓事業（B to C）

##### ①. プレスリリース支援個別支援

兵庫県商工会連合会チーフアドバイザー（以下、CA）派遣制度を活用した。

支援事業者数：2社、のべ支援回数：5回

令和4年12月9日（金）神戸新聞朝刊「姫路版」に「ドッグラン里音」が掲載された。

##### ②. DX推進（SNS活用と業務改善）セミナーの開催

開催日：令和4年12月8日（木）

会場：姫路市商工会香寺支所

講師：土原翔吾氏

出席者：15名

ウィズコロナ、ポストコロナにおけるSNS活用を販路開拓方法の一つとして説明。併せて、SNS活用に必要な時間を捻出するため、業務効率化によるIT活用を推進し、DXへの機運を高めた。ネットショップ展開等、販路開拓に特化した受講内容でなかったため、当該対応者数は出ていない。DX推進への機運を高めるため、業務改善に重きを置いた講義内容とした。また、DX推進に

向け兵庫県商工会連合会の IT 支援員制度を活用し、4 社をのべ 7 回支援。

【目標及び実績】

支援内容	R4 年度	実績	達成率
①「バーチャル展示会」出展事業者数	60 者	60 者	100%
成約件数	1 者	3 者	300%
②地域産品掘り起こし／調査数 ※展示会出展	10 者	2 者	20%
売上増加率／者（※）	2%	-	-
③プレスリリース支援個別相談会参加事業者数	2 者	2 者	100%
成約件数	1 者	1 者	100%
④DX推進セミナーの開催	1 回	1 回	100%
SNS 活用事業者	1 者	6 者	600%
売上増加率／者（※）	-	-	-
ネットショップの開設者数	1 者	-	-
売上増加率／者（※）	-	-	-

（※）初年度や 2 年目での売上増加は困難であるため、令和 6 年度以降の実績を目標にする。

【事業評価】

事業評価	A	B	C	D	E
コメント等	状況に応じて当初計画を柔軟に見直し、着実に実行できている。 しかし、地域産品の掘り起こしは継続して重視する。達成率が低い為、今後改善を目指す必要がある。				

<b>【評価目安】</b> A：達成率 90～100%    B：達成率 70～89%    C：達成率 40～69% D：達成率 1～39%    E：未着手 0%
--

## 7. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

### 【実施した事業の内容】

#### ①評価委員会の開催

当会の理事会と併設して、姫路市産業局長、兵庫県商工会連合会広域指導センター所長、外部有識者として中小企業診断士 1 名、但陽信用金庫香呂支店長及び西兵庫信用金庫夢前支店長、当会事務局長及び法定経営指導員各 1 名をメンバーとする「評価委員会」を年 1 回開催し、経営発達支援事業の進捗状況等について評価を行う。

#### ②評価結果の公表

当該協議会の評価結果は、役員会にフィードバックした上で、事業実施方針等に反映させるとともに、HPへ掲載（年 1 回）することを計画しており、本評価委員会終了後速やかに公表を図りたい。現在は、公表できていない。

### 【事業評価】

事業評価	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	E
コメント等	評価としては事業評価委員会で決まるが、評価委員だけのものではなく、会員事業所からの声や評価も反映すべきである。 それを事業の評価・改善に組み込んでいくことが課題である。 今後会員事業所のニーズ・評価に目を向けた報告等をしていただきたい。				
【評価目安】	A：達成率 90～100%	B：達成率 70～89%	C：達成率 40～69%	D：達成率 1～39%	E：未着手 0%

## 8. 経営指導員等の資質向上等に関すること

### 【実施した事業の内容】

外部講習会等の積極的活用

#### ①. 兵庫県商工会連合会が主催する商工会役職員等研修会

経営指導員及び一般職員の支援能力の一層の向上のため、経験年数や職歴を考慮し、計画的に職員を派遣した。

(受講研修一覧・受講人数)

研修日	研修内容	受講人数
6月8日	新任事務局長研修	1名
6月9日	商工会管理者研修	1名
7月8日	チーフコーディネーター研修	1名
7月22日	課題解決力強化研修	1名
8月4日	課題解決力強化研修	1名
8月9日	管理マネジメント研修	1名
9月14日	管理マネジメント研修	1名
9月30日	課題解決力強化研修	2名
10月7日	新任職員フォローアップ研修	2名
10月17日	チーフコーディネーター研修	1名
11月2日	戦略思考力強化研修	1名
11月9日	戦略思考力強化研修	1名
11月11日	共済担当者研修会	3名
1月30日～31日	チーフコーディネーター研修	1名
1月31日	職員税務研修	6名

(オンデマンド研修)

研修内容	受講人数
キャリアプランニング研修	2名
労務の基礎知識研修	2名
飲食業における原価計算の考え方研修	4名
経営計画策定研修	2名
就業規則の基礎知識と作成方法	5名
伴走型支援の方法と中小企業施策	1名
小規模事業者のインボイス	4名
販促、集客支援の進め方	1名
マーケティング支援の進め方	2名

事業再生支援の進め方	1名
事業承継支援の進め方	3名
商工会クラウド研修	1名
商工会のインボイス対応	2名

全職員受講回数：54回（内、全職員必須受講回数：41回）

## ②. 経営指導員等WEB研修システム

小規模事業者のニーズの高度化・専門化に対応、提案型支援スキルの取得のため、全国商工会連合会が運営する本研修システムを活用し支援ノウハウの習得を図った。

## ③. 職員事例発表大会

兵庫県商工会連合会の職員が一堂に会し、それぞれの事例を発表する本大会についても積極的に参加することで支援の幅を広げた。受講者数：7名

## ④. 中小企業大学校が主催する研修会

更に事業計画の策定件数の増加と、そのための支援能力の向上が指摘されているため、中小企業大学校が実施するセミナーへ毎年1人以上参加するように努めた。

(R4年度受講実績)

研修日	研修内容	受講人数
9月16日	WEBマーケティング支援の進め方	1名
10月4日～（3日間）	営改善支援に必要な財務の視点	1名
10月24日	IT支援力向上研修	1名
11月29日～（19日間）	税務・財務研修	1名

## ⑤. DX推進に向けたセミナー開催等

### ・DX推進（SNS活用と業務改善）セミナーの開催

開催日：令和4年12月8日（木）

会場：姫路市商工会香寺支所

講師：土原翔吾氏

受講人数：15名

- ・ウィズコロナ、ポストコロナにおけるSNS活用を販路開拓方法の一つとして説明。併せて、SNS活用に要する時間を捻出するため、業務効率化によるIT活用を推進し、DXへの機運を高めた。
- ・DX推進に向け兵庫県商工会連合会のIT支援員制度を活用し、4社に対し7回支援した。
- ・会員事業所のDXに向けた現状や意志等を確認するための「DXファーストステップ実証事業アンケート」を今年度で集計し次年度の支援に繋げていく
- ・オンラインでの参加が叶う「バーチャル展示会」やZOOMを活用した専門家相談・金融

相談・セミナー参加等を進めた

⑥. OJT制度の導入

支援経験の豊富な経営指導員と、経験が浅い職員や支援業務に携わってこなかった一般職員がチームを組成し、巡回指導や窓口相談の機会を活用してOJTを積極的に実施し、組織全体としての支援能力の向上を図った。

(具体的支援事例)

担当課長が職歴2年の職員を企業相談対応や専門家派遣時に同席させOJT指導した。

内、1社の相談対応を主体的に取り組みせプレスリリースにかかる指導を進めたところ前述の神戸新聞掲載に繋がった。

また、定期的な1on1ミーティングを開催し、各人の業務の進捗状況や目標管理等について確認・共有を図った。

⑦. 職員会議の開催

支所の職員を含め全員が一堂に会し職員会議(月1回、年間12回)を開催。

業務に係る情報を共有することはもとより、職員が経営支援事例を発表し、そのノウハウや情報を共有した。また、兵庫県商工会連合会の専門家や日本政策金融公庫担当者を招き、勉強会を開催するなど、担当外の業務についても見識を深めるとともに意見交換等を行うことで、職員の支援能力の向上を図った。

⑧. データベース化

担当職員等が基幹システム上のカルテ入力管理を徹底し、月次報告等の仕組化を図った。データ入力を適時・適切に行い、支援中の小規模事業者の状況等を職員全員が相互共有できるようにすることで、担当外の職員でも初見レベル以上の対応ができるようにしていきたい。

経営支援情報共有については、一部試験的に運用。重複する市場データ・外部環境、補助事業見込み測定等を有効活用。支援ノウハウ、支援案件・申請案件の重複箇所等の流用・参考が叶う仕組みづくりを図っている

職員共有フォルダの利便性を高め業務効率改善を図るため整理・管理ルールを設けた。

【事業評価】

事業評価	A	B	C	D	E
コメント等	・デジタル化は今後避けて通れないため、様々な面でこれまでなかった形での事業やコミュニケーション方法を検討し、推し進めていただきたい。 一方で、対面での対話が必要な部分もあるため、両方を活用してもらいたい。				

【評価目安】 A：達成率 90～100%    B：達成率 70～89%    C：達成率 40～69%  
D：達成率 1～39%    E：未着手 0%

## 9. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

### 【実施した事業の内容】

#### ①. 経営改善貸付連絡協議会

当会金融審査委員が令和4年10月27日、(株)日本政策金融公庫姫路支店管内の商工会や商工会議所等を対象に開催される経営改善貸付連絡協議会に参加。

管内の小規模事業者の現状・経営環境、資金状況等について情報交換・収集を行い、広範囲の経済動向や需要動向を把握し、経営発達支援事業に活用して小規模事業者への支援につなげた。

#### ②. 地域金融機関との連携

R4年7月27日、但陽信用金庫主催の「知的資産経営支援セミナー」に職員2名が参加。ローカルベンチマーク非財務部門や経営デザインシートの活用について学んだ。

次年度以降は、地域金融機関である(株)日本政策金融公庫姫路支店、西兵庫信用金庫夢前支店・安富支店、但陽信用金庫香呂支店・溝口支店と連携して、年1回「金融機関担当者による職員研修会」を開催し、地域の経済、金融動向等の情報を共有し、地域の需要動向、支援ノウハウ等について有益な施策等について情報交換を行いたい。

またセミナーの開催においては、開催日やテーマ等を共有し、それぞれの機関で周知徹底をおこなうなど、小規模事業者支援をより効果的に実施したい。

#### ③. 中播磨地区の商工会との連携

R4年6月24日、福崎町にて中播磨地区職員間での意見交換会を実施した

また、前述のとおり「バーチャル展示会」では中播磨地区からも新規出展事業者が8社あり、集中商談会会場には各商工会担当職員も来場し会員事業所のフォローを行う等、連携した事業実施が叶った。

#### ④. 行政との情報交換

令和4年12月22日、姫路市役所3階応接室において、佐野副市長ならびに柳田産業局長等、管理職3名と姫路市商工会会長はじめ役職員3名による地域経済に関する懇談会を開催。地域商工業者支援について意見を交換し、双方にとって実りのある取組に向けた意識の醸成が図れた。

#### ⑤. 専門家・他の支援機関との情報交換

会員事業所への専門家派遣時には職員が同席し専門家と情報交換を行った。セミナー開催なども同様に情報交換を行っている。各種支援機関とも情報交換を行っている。



【令和4年度】

	専門家等連携事業	詳細指導	相談者
経営一般	情報発信支援員派遣	DX 推進、SNS 活用、業務改善	7
	チーフアドバイザー派遣事業	事業再構築、プレスリリース、経営法務、財務分析	7
	課題別経営サポート企業への専門家派遣	労務	1
	労働環境チェック事業専門家派遣	働き方改革	1
	事業環境変化対応型支援事業	ものづくり補助金、小規模事業者持続化補助金、事業再構築補助金等	3 5
	新型コロナ相談窓口強化事業	ものづくり補助金、小規模事業者持続化補助金、事業再構築補助金等	1 6
	事業引継ぎ支援センター専門家相談	事業承継・法人設立	2

【事業評価】

事業評価	A B C D E
コメント等	<p>他との連携力は商工会にとって非常に大きな強みである。全国にネットワークを有し経営に関する様々な専門家との連携や金融機関等各機関との連携も積極的である。</p> <p>今後もネットワークをフル活用し、地域の小規模事業者のために貢献して欲しい。</p>

<p>【評価目安】 A：達成率 90～100%    B：達成率 70～89%    C：達成率 40～69%</p> <p>D：達成率 1～39%    E：未着手 0%</p>
--

## 10. 地域経済の活性化に資する取組に関すること

### 【実施した事業の内容】

#### ①. 銀の馬車道を活用した地域おこし

兵庫県中播磨県民センターと中播磨地区の商工会や行政等で構成する「銀の馬車道ネットワーク協議会」と連携し、地域の小規模事業者や観光資源のPR活動を行い、地域経済の活性化に取り組んだ。具体的な実施内容は下記のとおり

事業名称	実施日	会場	内容
銀の馬車道おもてなし講演会	R4年 11月27日	神河町中央公民館 「グリンデルホール」	芸術文化観光専門職大学学長・平田オリザ氏を招き、観光による地域活性化について講演した。
姫路城マラソンおもてなし	R5年 2月25・26日	姫路大手前公園付近	当該マラソンランナーへのおもてなしによる銀の馬車道事業PR

また、銀の馬車道グルメ&観光ガイドブック再編集及び再発刊。ただし、ガイドブックを印刷するのではなくWEBサイトでの公開とし持ち運び・情報更新等の利便性を高めた。配布物は名刺サイズとし当該URLをQRコード掲載したものを用意した。

#### ②. はりまもちこ倶楽部の支援

「令和4年度兵庫県地域活力増進事業」の採択を受け、各種事業の実施を支援した。

具体的な支援内容は下記のとおり

事業名称	実施日	会場	内容	目的
姫路食博	R4年 11月25日 から27日	姫路 大手前公園	約40のご当地グルメブースが集う食の博覧会	販路開拓 認知度向上
FoodStyle 関西	R5年 1月25日・ 26日	インテックス 大阪1・2号館	全国47都道府県450社以上の食品関連企業等が出展する展示会	販路開拓 認知度向上

その他、新たなレシピ集を作成した。また、上記事業出展にかかるPRチラシ等も制作。

### 【事業評価】

事業評価	A B C D E
コメント等	新型コロナへの対応も変化しているため、その状況に応じ、イベント等地域活性化に取り組んでいただきたい。

【評価目安】 A：達成率90～100%    B：達成率70～89%    C：達成率40～69%  
D：達成率1～39%    E：未着手0%

### 次年度に向けての取組みについての総評

経営発達支援事業の推進について、従来の経営改善普及事業の上乗せとなっている部分である。経営発達につながる事業である為、収益が上がる、売上が向上することが重要である。

その中で、計画に基づき事業を遂行している点は評価できる。また、計画遂行においては、会員事業所の取り組みも重要であり、その為の支援力向上を行うことで、会員事業所の事業拡大等に繋がることが考えられる。(公的支援策等の提案、適用など)

そのためには、支援担当者のモチベーションの向上が必要であると考えられる。支援能力の向上=モチベーションの向上といっても過言ではない。

今後支援力の向上、モチベーションの向上・維持に努めていただくことで、公的支援策等の支援がスムーズに行えると考ええる。